

投資型クラウドファンディング「開花-KAIKA-」を活用し、  
地方創生に向けた新たな事業を展開する

## 山口ソーシャルファイナンス株式会社

### ●会社概要

所在地	山口市佐山3番20号
設立	2015年4月1日
資本金	5,000万円
役員	代表取締役社長 木村俊之
主な事業	第二種金融商品取引業
登録番号	中国財務局長（金商）第41号
加入協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株主	株式会社MOT総合研究所
	株式会社山口銀行
	山口キャピタル株式会社
	株式会社安成工務店
	関門港湾建設株式会社
	株式会社長府製作所
	住吉工業株式会社
	富士商株式会社
	ユーピーアール株式会社
	株式会社ヤナギヤ
	山口トヨタ自動車株式会社
	山口日産自動車株式会社
	トヨタカローラ山口株式会社
	山口放送株式会社
	山田石油株式会社
	株式会社アデリー
	大晃機械工業株式会社
	株式会社カシワバラ・コーポレーション
株式会社井上商店	
協和建設工業株式会社	
ヤマネ鉄工建設株式会社	
URL	<a href="https://www.kaika-cf.jp">https://www.kaika-cf.jp</a>

### ◎はじめに

山口県の人口は、1985年の160万人から一貫して減少が続いており、現在は約140万人まで落ち込んでいる。県が公表した山口県人口ビジョンによると、人口減少への対策を講じなかった場合、2060年に山口県の総人口は81万人にまで減少すると予測されている。県では、こうした人口減少問題を最重要課題と位置づけ、その克服に向けて地方創生の取り組みを進めている。

そうした中、山口銀行と山口大学、MOT総合研究所（山口大学発のベンチャー企業）は、ベンチャー人材育成やベンチャー起業支援による地域活性化を目的として、「包括的連携協定」を締結。その目玉として、本年4月、クラウドファンディング運営会社「山口ソーシャルファイナンス株式会社」（山口市）を設立した。地域ベンチャーの資金調達のための新たなプラットフォームを提供する同社の取り組みをレポートする。

### ◎株式会社MOT総合研究所とは

山口ソーシャルファイナンスについて紹介する前に、MOT総合研究所の概要を説明する。同社は山口大学発のシンクタンク&コンサルティング会社で、宇部市の同大学常盤キャンパスのビジネス・インキュベーション<sup>1</sup>施設内にオフィスを構える。2012年3月、木村俊之氏（同大学大学院技術経営研究科にて修学、技術経営修士）が設立。社名にある「MOT (Management

<sup>1</sup> 事業の創出や創業を支援するサービス・活動のこと。もともとは、卵などが孵化するという意味。

of Technology)」とは、技術を効率的に活用して企業経営に役立てるという意味。環境・エネルギー、食料・バイオ、医療・ヘルスケア、金融・ICTの各分野で事業開発を推進し、地域に事業会社と雇用を創出することを目指している。

この度、金融・ICT分野で立ち上げたのがソーシャルファイナンスプロジェクト。起業や事業化にチャレンジしようとする人々を応援するため、木村氏が社長を兼務する形で山口ソーシャルファイナンスを設立し、投資型クラウドファンディングサービスを開始した。

### ◎投資型クラウドファンディングにいち早く参入

クラウドファンディングとは、「大衆＝クラウド」から「資金調達＝ファンディング」をすることを意味する。資金集めに悩むベンチャー企業などが、インターネットを通じて自らのプロジェクトを公開し、そのプロジェクトに共感した不特定多数の支援者が小口の資金を提供する。ここで双方を仲介するのが、クラウドファンディング運営会社。目標の資金が集まった時点でプロジェクトが成立し、プロジェクトの起案者は、集まった資金を元手に事業を開始する。

その種類は、資金提供者が受け取るリターンによって、大きく寄付型、購入型、投資型の3つに分けられる（下表参照）。投資型は金銭によるリターンが不可欠なので、対象となる事業

は営利事業に限定されるが、寄付型と購入型は金銭によるリターンが必要ないため慈善事業でも可能である。

日本では、2011年に発生した東日本大震災の復興を支援する手段として注目を集め、寄付型や購入型を中心に拡大してきた。一方、投資型は金融商品取引法の規制対象であるため、これまであまり普及してこなかったが、本年5月、参入要件等が緩和され、市場での広がりが期待されている。この投資型にいち早く参入したのが、山口ソーシャルファイナンスである。

### ◎日本初の産学金官伝連携のクラウドファンディングサービス「開花-KAIKA-」が始動

山口ソーシャルファイナンスの資本金は50百万円。MO T総合研究所や山口銀行、同行の関連企業山口キャピタルをはじめとする県内企業21社が共同出資した。第二種金融商品取引業の登録を受け、日本初の産（企業）・学（大学）・金（金融）・官（自治体）・伝（メディア）連携による投資型クラウドファンディング事業を開始。その名も「開花-KAIKA-」。事業の芽がふくらみ、日本中に花開くことをイメージして名付けられた。インターネットとテレビ・ラジオが一体になって情報発信し、金融機関がバックアップする新しい試みだ。

### ◆クラウドファンディングの種類

種類	内容	
【寄付型】	資金提供者が資金を寄付として提供する。リターンは発生しない。	
【購入型】	民法上の売買契約に基づき、資金提供者が一定の製品等を購入し、その対価として資金を提供する。購入した製品等がリターンとなる。	
【投資型】	ファンド形態	資金提供者が資金調達者と匿名組合契約などを締結して資金を提供し、分配等を受ける。
	株式形態	資金提供者が資金調達者に株式等による出資により資金を提供し、配当等を受ける。

「開花-K A I K A-」は、匿名組合契約の形式をとっており、投資家（資金提供者）が将来性の高い事業や地域を応援する事業に対して投資を行い、事業者（資金募集者）の売上高に応じた分配金を受け取る仕組みである。ファンド案件は同社や山口銀行などで行う投融資委員会です。事業者の財務状況や事業計画の内容、募集金額の妥当性などが精査される。もちろん事業計画の実現を保証するものではないので、売上高が予想を下回れば、分配金が投資した金額を割り込む可能性もある。

### ◎ベンチャー企業を地域ぐるみで支援

ベンチャー企業の経営者にとって、最大の課題は資金調達。民間の金融機関から融資を受けるのは容易ではないため、せっかくのプロジェクトが日の目を見ないことが多い。この課題を解決するため「開花-K A I K A-」は、事業者と多くの投資家を結びつけ、ベンチャー企業を地域ぐるみで支援する役割を担う。この他に、新しいアイデアに対する消費者の反応を試す場としてのプレマーケティング機能も有しているし、自社や新商品の広告効果、さらには見込み客の確保といった効果も期待できる。

一方で投資家にとっては、経済的対価だけが目的ではなく、その案件が応援したいと思えるかどうか重要となる。個別のプロジェクトを自分で吟味し、たとえば「故郷をもっと元気にさせたい!」、「やる気のある若者に投資したい!」という思いから投資を行うことで、地域の役に立ったという喜びが味わえる。また、IT、技術開発、店舗、イベント、スポーツなど多様なプロジェクトを対象に1口1万円で投資家デビューでき、事業が成功すれば売上に応じて分配金も増加する。分配金とは別に商品やサービスを受け取れるケースも多く、成立第1号

の「LOVE COLORファンド」では、投資家特典としてエコバッグをプレゼント。また、サッカーの試合興行を対象事業とした成立第2号の「レノファ山口応援ファンド」では、対象3試合のチケットを現物分配しており、購入型的要素も入っている。

### ◎会員数1万人が当面の目標

ファンドの成立は11月末現在で3件になり、現在は長門市俵山温泉の湯治テラス建設や下関市の酒蔵と一体化したカフェのリニューアルなど、6件の事業で投資を募集している。

今後は、山口県を中心に、広島県・福岡県の事業者についてもファンド対象とする計画だ。また、ふるさと納税を意識した寄付型、あるい



▲「ひと」と「まち」を元気にするTシャツでニッポンを元気に！LOVE COLORファンド  
写真提供：共栄安全有限会社



▲レノファ山口応援ファンド  
写真提供：株式会社レノファ山口



は購入型の取扱いを開始する予定もある。そのためにはファンドとして一定の規模が必要であり、早い段階で会員数1万人の達成を目標にしている。現状は山口銀行の店舗網を使ってPRを行っているが、今後は自治体やIT企業との連携なども視野に入れ、会員数増加を図る考えだ。

投資家になるには、「開花-K A I K A-」のホームページで新規会員登録、投資家口座開設の手続きを行う。その後、投資するファンドを選択し、申込をすれば投資家デビュー完了だ。投資後はマイページで投資中ファンドの状況などを確認することができる。会員登録も口座開設

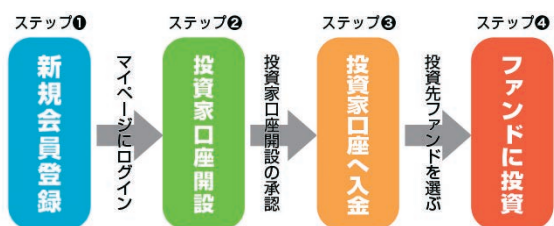
も手数料は無料。また、山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行に口座があれば、振込手数料や出金手数料も無料となる。

ところで、クラウドファンディング会社の多くは、購入型で東京が中心である。一方、山口ソーシャルファイナンスは地方発の投資型。投資型の魅力を発揮し、購入型との差別化を図ることで、会員の絶対数を増加させる狙いである。

### ◎おわりに

山口県内企業21社の「共感」により生まれたクラウドファンディングサービス「開花-K A I K A-」。投資家と事業者を結ぶのも「共感」だ。その「共感」が人とお金とプロジェクトを結びつけ、無から新たな事業と雇用を生み出す。そして、何より地域を元気にする。そんな夢のある仕組みを引っさげて、地方創生に向け新しい一歩を踏み出した山口ソーシャルファイナンス。これからの動きに大注目である。

(松本 敏明)



開花-K A I K A-  
<https://www.kaika-cf.jp>

